

利用のゾーニング区分（たたき台）

利用のゾーニング区分	定義	
	利用目的や利用の特性	利用の方針
原生自然型	<ul style="list-style-type: none"> 原始的な自然を有し、上級者による登山等の利用が限定的に行われる地域。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の雰囲気保持を最優先とした自然体験プログラムを提供する（限定・小規模・利用ルール遵守など）。 人為的改変、施設整備は必要最小限とする。
自然探勝型	<ul style="list-style-type: none"> 自然度が高く、拠点までの乗り物によるアクセスは限定的に認めるが、核心部はトレッキングや軽登山等により探勝する地域。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全に配慮しつつ、自然を活用した自然体験プログラムを積極的に提供する。 人為的改変や施設整備については、利用の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先する。
周遊観光型	<ul style="list-style-type: none"> 周遊観光の拠点として展望地や園地等が整備されており、一般観光客が散策等により利用する地域。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般観光客が手軽に参加できる自然体験プログラムを提供する。 人為的改変や施設整備については、自然の雰囲気保持よりも利用の快適性を優先する。
滞在・利用拠点型	<ul style="list-style-type: none"> 比較的自然度の低い温泉街や農地等で、利用者の滞在拠点等として利用する地域。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験や文化体験等も含めた自然体験プログラムを提供する。 宿泊施設等の比較的大規模な施設も含めた人為的改変、施設整備を行う。

実際には、各公園の自然環境や利用形態等の特徴により区分の定義は異なることが想定される。
立ち入り禁止地域についてはゾーニング区分を設定しない想定。

参考：「自然・ふれあい新時代」（利用のあり方検討小委員会（昭和62年設置））において提言された地域類型区分の概要

利用のゾーニング区分	定義
野生体験型	原始的な自然を有する地域で、徒歩による体験型利用が限定的に行われる地域
自然探勝型	自然性の高い地域で、拠点までの乗り物によるアクセスは限定的に認めるが、核心部は徒歩により探勝する地域
風景鑑賞型	古くからの観光地、温泉地等を含み、周遊型観光や海水浴等の在来型の利用が行われている地域
自然地保養型	農地等比較的自然性の低い地域を含み、滞在保養や施設型レクリエーションも認める地域

試行的な利用のゾーニング

(参考) 山岳地域における利用ゾーニング区分の事例 検討・研究段階のものを含む

大雪山 国立公園	グレード5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート。登山口からの距離、避難小屋の間隔が長い。自然の雰囲気保持を最優先。	
	グレード4	大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート。登山口やロープウェイ駅からの距離が長い。自然の雰囲気保持を最優先。	
	グレード3	大雪山の自然を体感する登山ルート。登山口やロープウェイ駅からのアクセスが比較的良い。歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先。	
	グレード2	大雪山の自然とふれあう軽登山ルート。登山口やロープウェイ駅舎からのアクセスが良い。歩行の快適性の確保に配慮。	
	グレード1	大雪山の自然とふれあう探勝ルート。温泉施設やロープウェイ駅舎からアクセスが良く、一般観光利用者向け。	
尾瀬 国立公園	登山エリア	山岳地であり登山に利用されているエリア。中級以上の登山者向け。	
	軽登山エリア	起伏のある森林帯であり山岳探勝エリアへ至るまでのエリア。初級者も含む登山者に利用される。	
	山岳探勝エリア	幅広い利用者層に自然探勝を目的とした利用がされているエリア。	
	入山エリア	本公園の入山口として利用されるエリア。車道の利用もあり、自然環境学習の場及び自然とのふれあい活動の場としての利用も推進される。	
中部山岳 国立公園 上高地 1	登山	パリエーションルート	上級以上の登山者の利用を想定
		岩稜ルート	上級以上の登山者の利用を想定
		山稜・高山帯ルート	中級以上の登山者の利用を想定
		亜高山帯ルート	初級以降の登山者の利用を想定
	トレッキング	河畔ルート	ハイカー、すべての登山者を想定
	散策・ 風景探勝	探勝路	観光客、ハイカー等の利用を想定
		園路	すべての観光客の利用を想定
支笏洞爺 国立公園 2	A	貴重な自然資源を有し利用し易いゾーン	
	B	貴重な自然資源を有するが利用が困難なゾーン	
	C	保全の重要性は低い利用し易いゾーン	
	D	保全の重要性がひくくアクセスが困難だが、施設整備が容易なゾーン	
	E	保全の重要性がひくく施設整備もアクセスも困難なゾーン	

1：第3回中部山岳国立公園上高地連絡協議会・配布資料1-3（平成25年2月18日開催）より抜粋。

2：次の研究論文より抜粋。愛甲哲也・富所康子（2012）自然資源とレクリエーション資源を考慮した自然公園のゾーニング手法の検討、ランドスケープ研究 Vol. 5, 96-103 頁

試行的な利用のゾーニング

ゾーニングを検討する評価項目

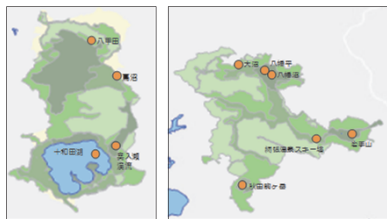
- 各エリアの利用形態を設定するために、評価指標を設定し地域の特性付けを行う。

利用ゾーニングを検討する評価項目（例）

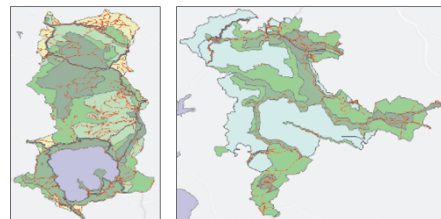
指標項目（例）[評価方法]	
自然・観光資源の位置	歩道や登山道の整備状況
車道からの距離	交通拠点からの距離
宿泊容量	拠点施設からの距離
地点別利用者数	視点場の有無
植生自然度	特定植生群落
生物群集（生物多様性上重要な地域）	...

各エリアの特性付け及び区分設定

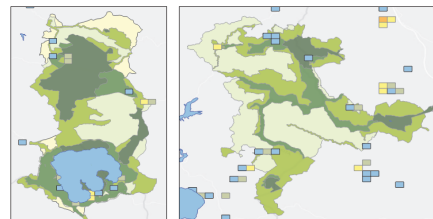
観光資源の位置



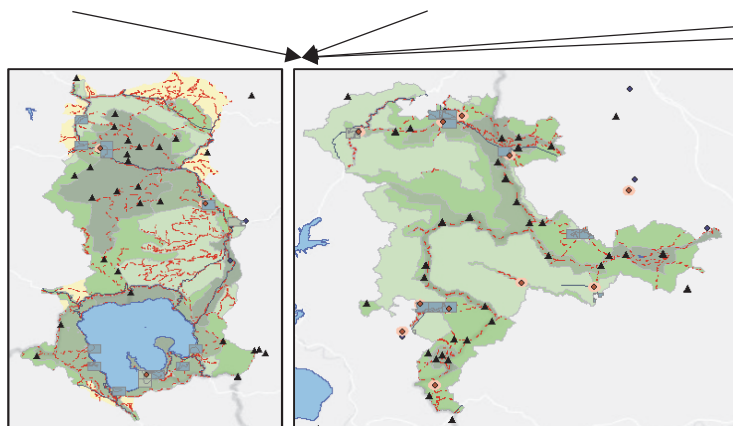
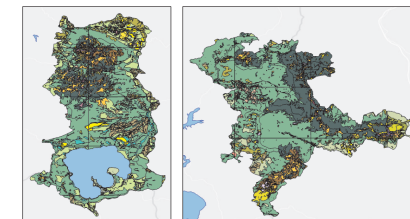
車道からの距離



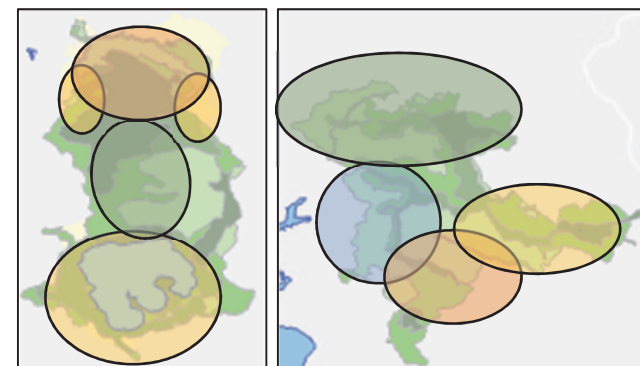
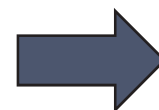
宿泊容量



植生自然度



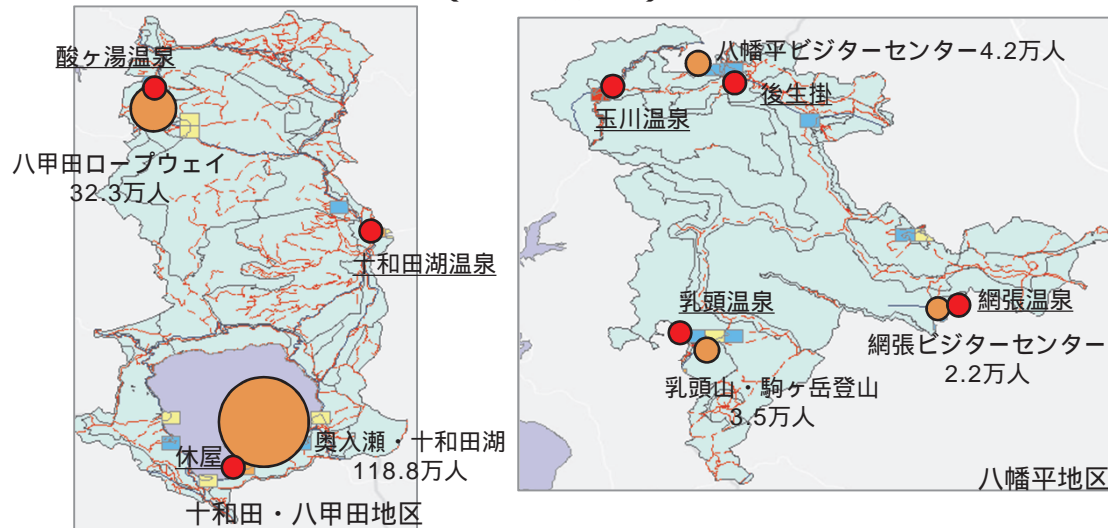
各指標項目を重ね合わせ、エリアを総合的に評価する



各評価項目と行政区分や地種分、道路、尾根線等を考慮してエリアを区分

試行的な利用のゾーニング

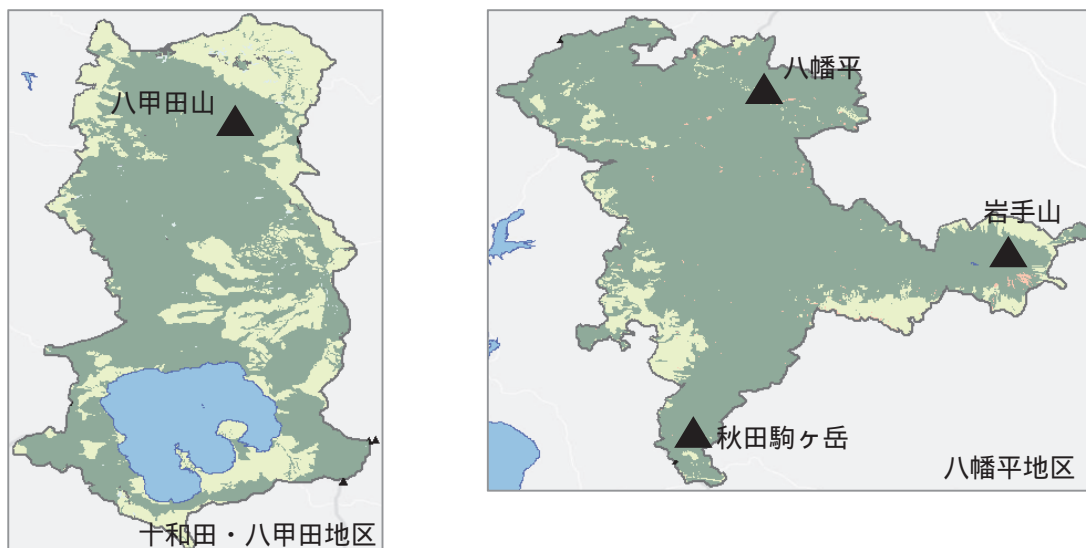
利用に関する評価項目の重ね合わせ（十和田八幡平）



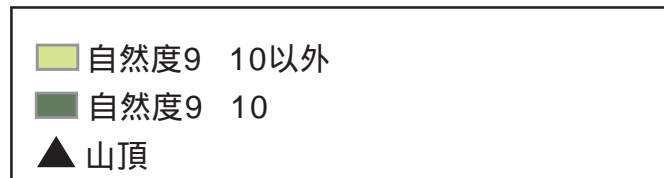
凡例



保全に関する評価項目の重ね合わせ（十和田八幡平）

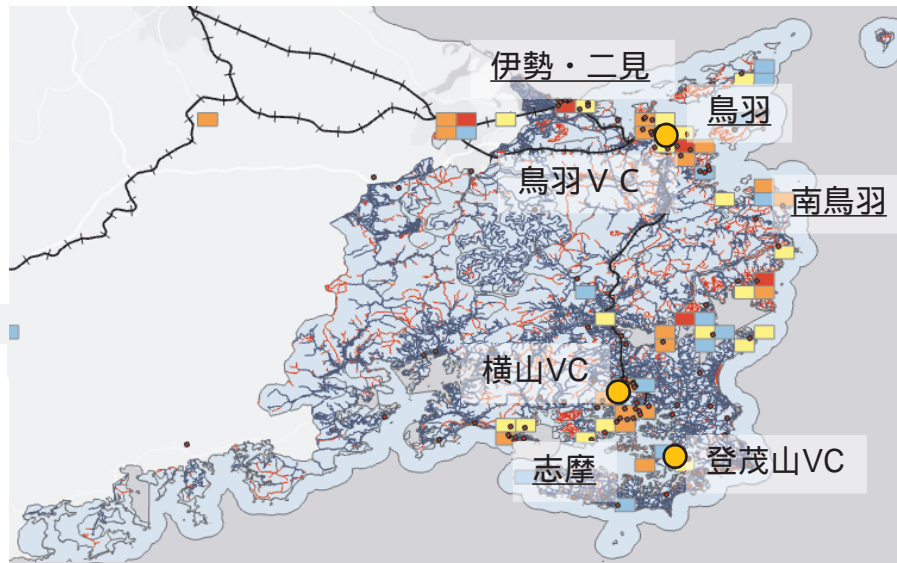


凡例

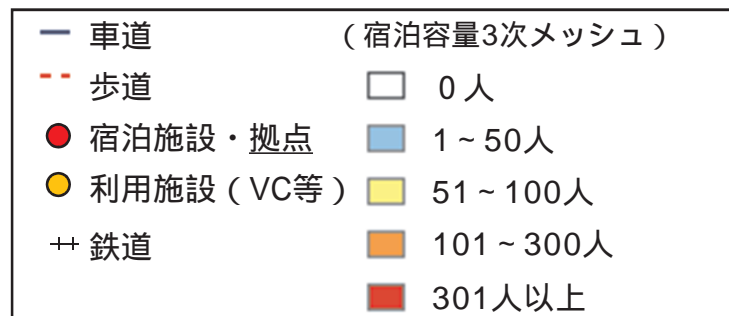


試行的な利用のゾーニング

利用に関する評価項目の重ね合わせ（伊勢志摩）



凡例



保全に関する評価項目の重ね合わせ（伊勢志摩）



凡例

